

家庭科の男女共修をすすめる会

会報

'95 春

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11
婦人会館内
振替 〇〇一九〇・一九一八九一

発行 一九九五年三月十一日

総会と学習交流会のおしらせ

戸山高校記念会館で

一九九四年度総会

四月八日(土)
午前十時から正午まで

- ①一九九四年度総括 ②一九九五年度運動方針 ③九四年度決算 ④九五年度予算
⑤九五年度世話人 ⑥その他

学習交流会

学校を、社会を変える家庭科男女必修!

四月八日(土)
午後一時から五時まで

高校での共修が始まって「家庭科は男女皆が学ぶのがあたり前」という認識がようやく定着しつつあります。男女必修の現状について情報を交換し、その意味を確認し、着実な推進のために話し合ひましょう。

講師は、情熱を持って男女必修を推進された前文部省職業教育課長、現在は広島県教育長の寺脇研さん。現場からの報告は、長年ねばり強く共修運動にとりくんで成果を挙げた滋賀県高教組の古子澄江さん、男子校で家庭科設置推進の立役者となった法政大学第一中・高等学校の三宅進さん、共修先進校の男性家庭科教員である神奈川県立栗原高校の村山哲也さんの三人。場所は昨年と同じ戸山高校記念会館(都バス都立障害者センター前下車・〇三・三二〇二・四三〇一)

参加費は資料代共千円です。ちらしを同封しますのでお誘い合わせの上ご参加ください。

もくじ

総会と学習交流会のおしらせ	(1)
「家庭科教員をめざす男の会」と 文部省訪問を計画	(2)
共修初年度の感想	(2)
日教組教研家庭科分科会報告	(3)
日教組教研女子教育分科会紹介	(3)
全教教研・男女共修家庭科の研究・ 実践報告から	(4)
沖縄県高校家庭科・男女共修元年	(5)
国際婦人年連絡会の報告	(7)
世話人会報告	(8)

会費をどうぞ

一九九五年度の会費は正式には四月八日の総会で決定しますが、世話人会では会費改定の提案はしませんので、今年もお早めに年額三五〇〇円をおさめ下さい。連絡はお早めに住所、お名前などの変更につきましては、できるかぎり早く事務局までおしらせください。

「家庭科教員をめざす男の会」と 文部省訪問を計画

芦谷 薫

自らが身を置く学校の中で、日々の学校教育に様々な疑問をもつ他教科の男性教師達が、一個の人間として豊かな生活をつくること、出来る教育を願って家庭科を教えたいと考え、

高校の共修初年度にあたっていろいろな感慨をお持ちの方も多いことでしょう。名古屋の川澄りつ子さんは次のような感想を寄せて下さいました。

中学校での別修の屈辱、高校での女子だけ必修の怒り、やっとやっとやっと20年以上たって共修になってくれました。ほんとうにうれしい。自分の子どもたちにはあんな不合理を味わってほしくない。もっと住みやすい世の中になんかと思ひます。

日教組第44次教育全国集会から

1月27～30日 長崎市で

家庭科分科会報告

立山 ちづ子

家庭科分科会の参加で印象の深い点についての記したい。

報告は小8、中13、高7。

山形の某工業高「生活技術」前半2単位の実践は、2時間連続、2分割の学習形態をとったが、教師の持ち時間が増え、実習室の使用時間は1校時→6校時まで満杯。教師数と施設・設備が不足、無理している実態が明らかにされた。1年間60時間の展開は、衣生活16（エプロン製作8）、食生活20（実習8）を中心に、生活設計・高齢化問題・家族・保育・住生活がほぼ6ずつ。後半2単位は工業科教員の担当になる予定。この科目決定と担当計画は前年度、家庭科教員が配当される前に行われ、その過程は不明。「生活技術」は全国3%の採択であるが、その展開について、今後明らかにしていくことが課題であろう。

学校5日制となり、教育内容の小・中・高の重複が論点となる。現在、衣・食・環境問

通信教育で家庭科教員の免許を取得中であったり、取得し終ったりしています。

ところが、免許を取得しても家庭科の教員として転科できず、もう一度採用試験を受け直さねばならないわけです。また家庭科の免許を取得できる大学・短大の大多数が男性に門戸をとざしています。家庭科男女共修に男女共家庭科をあたり前の風景にしたいと、「家庭科教員をめざす男の会」は92年に発足しました。

94年度までに、京都、大阪、岡山、長崎等で男性家庭科教員が誕生していますが、まだまだ少数です。あたり前の風景になるように、希望をもっている学生や現職教員に家庭科教師への道が広く開かれるようにと、家政系の学科や学部をもつ全国の短大、大学に、男子学生の受け入れについてアンケートをしました。その結果、狭き門の状況が明らかにになりました。理由は、「家庭科的能力の差」や「男女の問題」という？！ものもあるが、施設設備などの財政上の問題も見のがせない。そこで「男の会」は、文部省に積極的な施策を要望することにし、その要請行動を当会によびかけました。十二月、一月の世話人会で話し合い、「男の会」から送られてきた要望書を検討しました。

要望点は次の三点です。

一、家庭科の教員養成が可能な大学、短大が男性にも門戸を開くことが望ましい旨、文部省としての積極的見解を出されたい。また、各大学、短大にもその旨を伝えていただきたい。

一、その際、正規の学生としての受け入れが不可能な場合でも、聴講生や科目履修生などの形で受け入れなど、男性にも家庭科の免許取得の道が開かれるよう、文部省として可能な予算措置をしていただきたい。

一、家庭科の男性教員を積極的に増やすよう各教育委員会に要請していただきたい。

一月の世話人会で、当会も要望書を作成して、文部省（大学教育局、生涯教育局）と総理府男女共同参画室を「男の会」のメンバーといっしょに訪問することを話し合いました。「男の会」と連絡をとりながら、4月の総会学習交流会までに訪問できるよう進めていきたいと考えています。

地域の状況の報告やご意見をお待ちしています。はがきでも、世話人への電話でも結構です。

（編集部）

題で重なりが多い。子どもの発達上、1回やればよいものと、くり返しが必要なものもある。整理する視点がある。現実には、住生活（環境を除く）の展開が少ない。ただ、新潟・高では、15時間をあて、雪国という地域性を、日照時間、暖房、行政の対雪対策、持ち家の購入計画とローンなどを取り上げ、くらしと住生活を展開している。高齢社会に入り、人権保障という視点での住まいの確保について、さらに重視していく必要がある。

環境問題のライフサイクルの展開の視点が、生活者の自助努力による報告が多い。企業の製造物責任を明確にする生産、消費のしくみまで視野に入れ、先達の諸外国の事例を導入した展開が今後望まれる。

家族・保育領域では、教師自身の生活・生育史をさらけだして、子どもたちとの信頼関係を築きながら、共に生きる視点での展開が熊本・中、大阪・小から報告された。神奈川・高は、家庭科は「人権教育である」の視点で、家族・保育を一つにし、人間の1人の誕生から死までのくらしを一貫する展開を試みている。

「女子教育もんだい」分科会紹介

熊本 東 市子

次の4つの柱で、レポートをもとに討議し

た。一部しか書ききれないが簡単に報告する。

1、女性をめぐる情勢……「採用時の面接」「卒業生の就労実態」のアンケートから、「セクハラ」とらえきれない女子」「労働者として権利があることを知らない」実態が浮かび、実践の必要が確認された。

2、労働・家庭をどうとらえ、どう教えるか、卒業3年・5年・10年の卒業生へのアンケートから、厳しい現実と、転職という軌道修正をしながらも自分らしい生き方を見つけていっている事実が報告された。また多様な家族形態を認識させる授業もあった。

3、①混合名簿のとりくみ……混合名簿を広め「区別しない」だけでなく、個性を表現できる力を育てる必要が確認された。

②慣習・意識の見直し……仕事の男向き女向きの思いこみ。教科書洗い出しから出版社への申し入れ。小学5年での、男女が自立し共に生きる視点を持たせる家庭科開きの実践。まだある中学での技術家庭科男女別履修に見られる教員の意識など。

4、性をどうとらえ、どう教えるか……「からゆきさん」「ジャパゆきさん」の授業。自立することを追求させるための「生」を考える多面的な授業などが報告された。

今後の課題は、私達自身の運動をどう作っていくか。教育の課題は何かの2点から、話し合った。

一九九四年度 教育研究全国集会(全教)

男女共修家庭科の 研究・実践報告から

(二月二日～三日)

和田 典子

高校では「共修元年」にあたる今年度、各地の中学・高校でとりくまれた家庭科実践が、大阪でもたれた全国教職員組合の教研集会で報告されました。家庭科・男女平等教育分科会へのレポートをみますと、

〈報告書の全体状況〉

家庭科分科会のレポートは、(小)三、(中)三、(高)七の計一三篇で、私学女子校の一篇以外はすべて男女共修家庭科についての研究・実践報告です。

しかし、男女平等教育分科会のレポートは(小)四、(中)五、(高)五の計一四篇ですが、取り上げたテーマは「生と性」「エイズ」「家庭・公民の授業づくり」「教科書」「頭髮自由化の自治活動」「女高生の就職」「高校入試に

おける男女枠撤廃」などで、内容も多岐にわたり、教育実践だけでなく社会的なしくみに関する運動的なとりくみもみられました。ここでは、右レポートから、中学・高校の男女共修家庭科に関する報告だけを取り上げ印象的な内容にしばって紹介することにいたしました。

〈中学校の報告〉

中学校のレポートのうち、北海道、高知、は、三年間の完全な技術・家庭科の共学実践の経過、カリキュラムや領域編成、教材の工夫などを報告していますが、三年生の選択領域として保育のほかに何をか問題になっているようで、三篇とも三年の実践例が提起されています。それをみますと「食物と栽培を結びつけて、生産・消費の全過程をとり上げた実践——北海道」「食生活問題として加工食品教材化の試み——高知」「伝統文化としての藍染を取上げて現代の生活を考えさせようとした——埼玉実践」など、生産的体験を通して生活問題に着目させようとしています。保育では「私の成長記録」など中学生の自分と結びつけての実践が重視されています。

〈高校の報告〉

「江り出しは好調」「予想したより数十倍も楽しい」といった充実感で共修の授業が展開している様子がレポートの共通した基調になっているのが印象的です。

男子校における家庭科授業「山口・豊浦高は、初の女性教員としてゼロから出発した10ヶ月の経過を。愛知・松平高は生徒・父母の家族・家庭に対する実態調査をふまえての「家庭経営」の授業。静岡・浜松湖南高は、「くらしと経済」の現状を教えたあと「むだづかいチェック」や「将来のパートナーへのラブレターの交換」により生徒との交流を試みた報告。北海道・函館中部高は、「生活設計」の授業にサイコドラマを導入して好評を得た報告。長野からは臼田高から、老人福祉施設の現状のVTRづくり。小諸高は、組織的に継続してとりくんできた、県家庭科基礎調査結果とそれをふまえての行政への要請行動」の報告が出されています。

そのほか、高知・明治中は(小)四、(高)二、四二七名対象に「男女平等意識調査」を。埼玉三芳中は「公民」で「家庭の仕事の分担調査」。川口東高は共修「家庭一般」の指導計画と家族・家庭分野で新しく試みた「理想の結婚相手投票」と指導上の工夫などを報告しています。

沖縄県高校家庭科

男女共修元年の状況

沖縄県 喜久川 幸子

一、履修科目・履修学年・履修単位数

平成六年度入学者の家庭科男女履修科目は、県立高校六一校(普通高校三九、職業高校二二)のうち五七校が「家庭一般」、残り四校のうち工業高校二校が「生活一般」、普通高校一校と水産高校一校が「生活技術」である。この水産高校は平成七年度入学者から「家庭一般」履修が決まっており、三校を除く全ての高校が「家庭一般」を履修することになる。又、私立高校四校のうち三校が「家庭一般」を履修しており、残り一校は平成八年度から「生活技術」の履修を予定している。

履修学年は、調理科を除く家庭に関する学科と農業高校生活科は一年で、他の職業学科は二・三年での履修が多い。普通科は一・二年又は二・三年で、定時は一・二年か三・四年又は三年である。尚同一校でも学科により履修学年が異なっている。県立、私立共に各

科目の履修単位数は四単位である。

二、教員、実習助手の配置

県立高校における平成六年度の家庭科教員数は、前年度七名の退職者に対し九名採用されて、一八五名(専任一六四、臨任一、時間講師二〇程)である。工業高校一校(講師一)を除き、一応全校に専任が配置されているものの、多くの時間を講師に依っている。研究会、教研等で専任教員の複数配置と併せて二四学級以内の学校での実習助手の完全配置も含め、採用増の要請を行っている。私立高校では二校が専任、一校は講師をあてている。

三、施設・設備(教研レポート三六本より) 県立全高校の施設は一応設置されている。しかし、施設の老朽化や履修者数増加による実習室の不足、男子トイレの未設置、調理台や備品の不足などの問題がある。狭い実習室で試食台も狭く、窮屈な思いをしている。ミシンの台数が少なく手縫いで時間がかかりすぎる。水産高校では予算が足りず、はじめてスूपをフォークで飲んだなど多くの報告があり、設備・備品の充足が求められている。

四、生徒の反応(教研レポートより) 学校差、個人差などはあるものの、男女共修をラッキーと喜ぶ男女生徒たちが多く、ごく当然のこととして受け入れている。男生徒

はきらきりと輝く眼差しでミシンに取り組んでいる。実習室への移動も男生徒が早い場合が多く、指導が進むにつれ終了後の片付けも手ぎわよくやっている。男女混成の座席で仲良く協力し合って学習している。

五、学習指導上の問題(教研レポートより) 男生徒は、家事体験や中学校での学習領域の男女差により基礎力が乏しい。学習内容についても男女間に興味・関心の違い(女子は保育、男子は住居が好き)がある。教材のレベルが高いため生徒も教師もゆとりがない。職業高校では他教科で代替できる内容もあるので四単位は足りない、はつきり言って迷惑だと発言する実科の教師がいる等の報告があった。生徒が興味の持てる教材を調べ、生徒の実態や個性に合った教材の自主編成が必要。安全、衛生面への配慮を徹底し、授業効果を上げるため授業形態、指導方法の研究を重ね、引続き条件整備の要請を行うことになった。こんな最中、北谷高校教頭花城隆先生が、PTA新聞に「一八年前のオレゴン州の高校家庭科男女共修」の紹介をされ、男女共修の必要性について述べて下さった。琉大の鈴木雅夫教授による「住居の模型づくり」の研修もあり、男女共修は確実に前進している。次表は、教育庁高校教育課のまとめである。

平成6年度入学者の教育課程について

まとめ 平成6年1月
沖縄県教育庁高校教育課

家庭科男女必修(4単位)		
家庭一般	生活一般	生活技術
那覇工業 南部工業 球陽 翔南 以外57校	那覇工業 南部工業 2校	球陽 翔南 2校
履修 1年 13校 泊(通), 読谷(家政), 普天間(家政), 浦添(家政), 真和志(家政), 糸満(家政), 北農(生科), 中農(生科), 南農(生科), 宮農(生科), 八農(生科), 沖工(生情), 宮工(生情)	履修 1・2年 南部工業	履修 1・2年 球陽
履修 1・2年 42校 辺戸名, 北山(普通), 本部, 名護, 宜野座, 石川, 与勝, 嘉手納, 具志川, 美里, コザ, 北谷, 北中城, 普天間, 宜野湾, 西原, 浦添, 大平, 首里, 首里東, 開邦, 那覇, 真和志, 小禄, 那覇西(普通), 豊見城, 豊見城南, 南風原(特進外), 知念, 糸満, 向陽(普通・理数), 久米島, 宮古, 北工, 伊良部, 南農(農), 中工(機, 自), 美工(調理), 浦工(調理), 八重商工定, 沖水(総合以外), 泊(午前, 夜)		
履修 2・3年 25校 北山(理数), 前原, 読谷, 那覇西(国, 体), 南風原(特進), 八重山, 向陽(国文), 北農(熱農, 園工, 林緑, 食化) 宮農(生科以外), 中農(生科以外), 南農(施園, 園デ, 食技, 緑工), 宮農(施園, 農工, 畜技), 八重農(生科以外) 中工(電, 土), 美工(調理以外), 浦工(調理以外) 沖工(生情以外), 宮工(生情以外), 八重商工, 名商, 具商, 中商, 浦商, 那商(会計以外), 沖水(総合)		
履修 3年 2校 北農定, 那商(会計)	履修 2・3年 那覇工業	履修 2・3年 翔南 (海洋 海工)
履修 3・4年 4校 コザ定, 中農定, 沖工定, 那商定,		
		履修 3年 翔南 (食料 商業)

国際婦人年

連絡会報告

和田 典子

本号では、教科書についての要請行動と北京フォーラムにむけての準備状況にしばって報告することになりました。

一、教科書についての要請行動

要請内容については、冬号で報告しましたので、相手方との交渉経過・反応などは次の通りです。

A、行政及び民間組織への要請(日程順)

ア、11/24総理府へは松浦世話人はか五団体が参加し、男女共同参画室の坂本室長ほか二名の事務官が応待しました。

イ、11/28出版労連では、吉田副委員長ほか四名の責任者と、六団体が話し合いました。

ウ、11/28日教組では、西沢副委員長、森広教育政策部長、池田女性部長と五団体が対談し、要請の趣旨支援を約しました。

エ、11/29文部省へは、中村世話人はか四団体が出席、省側は桑原・南教科書課員と

鈴木・多田婦人教育課員の四名が、要請に対する回答をしました。

オ、11/30教科書協会では、漆原常務理事と福井事務局長が応待。

カ、11/30全日本教職員組合(全教)では岡田副委員長と面会しました。

なお、オでは五団体、カでは四団体が参加しました。

ア、カの行動結果から得た印象は、総理府の教科書行政に対する認識の乏しさに驚いたこと。

文部省は教科書作成への介入を否定する一方で検定によるしめつけや採択制を見直そうとはしていないとか。従来の「教科書を教える」方針を「教科書で教える」という新努力観にみ合う方向に転換しようとしていること。

などが知られました。

また「両性の平等」には配慮し「性役割の固定化」記述はチェックしているといいますが、検定のない道徳副読本の内容は「指導書」による統制が行なわれているという矛盾。

教科書価格を不当に低くおさえているため子どもの減少と重って、小企業では営業不能が生じているなどの問題のあることが訴えられていました(出版労連も教科書協会も)。

B、教科書会社訪問の件

検討した教科書の発行元をしらべた結果、都内四社、大阪一社が該当していることがわかりましたので、文書を予め郵送しておき、直接訪問して、作り手側と意見交換をするこ

とになりました。

12/15東京書籍へは四団体が出席、社側は鈴木編集局長、内村次長ほか担当者四名が出席。約一時間話し合いをしました。

残りの三社は、2/8に訪問。その結果は後日に……。

二、北京フォーラムに向けて

連絡会としての参加者は「すすめる会」からの12名をふくめて90名です。一月にニューヨークの本部より参加の承認が得られました。

参加団体の連絡会1/23午後一時より婦選会館で行なわれ、フォーラムや日程、財政(カンパほか)などについて話し合いました。

尚、教育・マスメディア分野のテーマは、

① 家庭科の男女共修実現にむけてのとりくみと成果

② 教科書の検討と改革のとりくみ

③ マスコミの現状と問題点、改善行動。

世話人会報告

〆十二月二十四日

☆情報交換

- 94年度会計中間決算報告（榎本）。
- 教育マスメディア委員会の報告（和田）。
- 伝統校熊本高校で共修がスタートしたこと。
- 西原典子世話人（仙台）が母親に家庭科の模擬授業をして好評だったこと。

☆討議・決定事項

- 「男の会」と協力して文部省へ働きかけることについて。
 - 男女共同参画審議会への働きかけについて。
 - 教育委員アンケートの発送方法と内容再検討について。
 - 95年度総会・集会に向けて、日時・場所・報告者・一部役割分担まで決定。
 - 北京会議に向けて話し合う。男女共修実現と教科書問題について報告することはきまっているが、授業実践についても発表したいので、連絡会に申し出る。
 - 会報春号の原稿と締切日について。
- ☆世話人会終了後、近くの和食の店で忘年会を行いました。

（石渡仁子）

〆一月十五日

- 1、「家庭科教員をめざす男の会」が文部大臣宛にだす要望書の文案内容について検討し、「共修の会」は別に要望書を作っているしよに提出行動をすることに。（芦谷）
- 2、男女共同参画審議会への働きかけの件。縫田さんの話では、現在は大学生の就職問題をやっているが、家庭科問題がれば必ず意見をだすとのこと。新聞で読む限りよい方に進んでいるよう。
- 3、「集会・総会」の内容・進行について検討。
- テーマ「学校を、社会を変える家庭科男女必修」と決定。依頼状を講師、報告者に発送する。（和田）
- 運動方針について原案検討、次回までにまとめて再提出。（磯部）
- 4、会報春号については、八ページで発行する。
- 5、道府県教委へのアンケートの呼びかけ文検討・1月25日発送で進める（近江）等。

（榎本稲子）

〆二月十八日

- ◎全教教研で共修に対する校長たちの消極的姿勢が問題となったという報告に関連して、家庭科廃止の風評が話題になりました。文部

省側に現行の教科構造を抜本的に改訂しようという意図・動きがあり、研究指定校でそのための研究をしているようです。今後これらの動きに注目し、家庭科の成果が消えてしまいうことがないようにしなければと話し合いました。

◎94年度総括案を決定。関連して、国際家族年はマイナスの動きがなくてよかった。プラス面でも積極的なものはなかったが、家庭科の予算がふえるなどわずかながらプラスの影響があった、と話し合いました。

◎95年度運動方針案を決定。関連して、各地の情報や世話人を通してもっと積極的に集めなければと話し合いました。

◎「家庭科教員をめざす男の会」といっしょに文部省を訪問する時に持っていく要望書について検討、次回に確定することにしました。

（梶谷典子）

◇去年の春作成した資料「イメージ一新——共修の家庭科教科書——」は好評のため増刷したのでどうぞご利用ください。（送料別、一部二百円）

◇編集の都合でこの号では最新情報が少なくなつたことをおわびします。次号はページをふやして充実させます。（編集部）